

2022年4月4日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号：4575 東証グロース)
問合せ先 取締役最高財務責任者 加登住 眞
IR@canbas.co.jp

東京大学との共同研究契約期間延長のお知らせ

当社と国立大学法人東京大学医学部附属病院は、同病院伊地知秀明講師が作製したヒト膵臓がんに近い膵臓がん発症モデルマウスを用いて当社が研究・開発中の抗がん剤候補化合物の薬効試験を実施する研究について、2016年3月から共同研究契約を実施しています。

今般、当該共同研究の期間を3年間延長する合意が成立し、同共同研究契約の変更契約（2022年4月1日効力発生）を締結しましたので、お知らせします。

【研究期間の延長】

(変更前) 2022年3月31日まで → (変更後) 2025年3月31日まで

なお、共同研究の内容

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・東京大学医学部附属病院が提案または提供する医薬品・医薬品候補化合物・CBP501を含むキャンバスの研究開発に関連する医薬品・医薬品候補化合物 それら単剤および併用による膵臓がんへの薬効・安全性等を、膵臓がん発症モデルマウスを用いて確認する |
|---|

については、今回は変更ありません。

【共同研究契約期間延長の背景】

CBP501、CBP-A08、CBT005など、当社が開発中の抗がん剤候補化合物は、がん微小環境の免疫機構に作用することがわかっており、従来は難治性がん最新の免疫チェックポイント抗体ですら効果が期待できないとされている膵臓がんでも、他の治療との併用によって薬効を発揮する可能性があります。

一般に動物実験では、免疫機構に不全のある状態にがん細胞を移植したマウスを使用します。この一般的な方法では、免疫機構に作用するタイプの抗がん剤候補化合物の試験はできません。

東京大学医学部附属病院伊地知秀明講師が作製した膵臓がん発症モデルマウスは、自然に発症したヒト膵臓がんに近い性質を有し、免疫系抗がん剤の試験にきわめて有用です。

共同研究では、この膵臓がん発症モデルマウスを当社の研究開発に関連する実験に活用し、当社が開発中のものを含むさまざまな医薬品や医薬品候補化合物を用いて、膵臓がんへの薬効・安全性等を確認し、薬効が見られた場合には、組織染色などの手法を用いて当該薬効が発揮されるメカニズムを解析してきました。

過去約6年間の共同研究においては、主に「本モデルマウスが確かにヒト膵臓癌発症と非常に類似していること」「CBP501が白金製剤・免疫チェックポイント阻害抗体との併用によって効果を示すこと」「医薬品候補化合物のふるい落としやCBP501の併用候補化合物の選別に有用であること」などが確認でき、現在は、基礎研究段階で有望なデータを示している新規化合物CBT005の薬効試験などに活用しています。

また、既に複数の医薬品候補化合物が東京大学医学部附属病院から提案されており、当社の開発ポートフォリオ拡充に直結する可能性のある研究が追加されることが期待されます。

さらに、CBP501とは作用メカニズムの異なる候補化合物を基礎研究の素材とできることから、新たな併用戦略が描ける可能性もあります。

これらの背景から今回、共同研究期間を延長する合意に至りました。

なお、本件契約期間延長に伴い今後3年間にわたり若干の共同研究経費負担が発生しますが、2022年6月期業績など短期的な当社の業績に与える影響は僅少です。

中長期的には、臨床第2相試験中のCBP501、Stemline社による臨床第1相試験の終了したCBS9106、前臨床試験準備段階にあるCBP-A08、基礎研究段階で有望なデータを示しているCBT005に続く当社研究開発資産の拡充につながり、中長期的な収益や企業価値向上に寄与する可能性があると考えています。

以上